第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

所属名	高齢介護課
担当者名	石井・福田

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第８期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
有田市	②給付適正化	◇介護保険制度は、市が保険者となり、民間を中心とした介護サービス事業者がサービスを提供するしくみであり、高齢者が安心してサービスを利用しながら自立した生活が送れるよう、市と事業者が協働でサービスの質を確保・向上させていくことが求められます。 ◇介護事業所の利用者や職員の新型コロナウイルス感染症の適切な予防対策を推進していくことが求められます。 ◇高齢化の進展により、介護人材が全国で今後5年間に新たに30万人必要と推計されてい ますが、夜勤など重労働であることや、賃金水準が他業種と比較して低いことなどから、介護人材不足が顕著となっており、本市においても、人材確保は大きな課題と言えます。 ◇介護保険は、利用者にとってふさわしいサービスの組み合わせをコーディネートする「ケアマネジメント」のしくみが制度化されています。利用者の自立支援、介護予防・重度化 防止に資するよう、ケアマネジメントの質の一層の向上を図っていくことが求められます。 ◇介護保険制度の信頼を高め、持続可能な制度としていくためには、介護給付適正化事業を通じて、介護サービスを必要とする利用者を適切に設定し、利用者が真に必要とするサービスを介護サービス事業者が過不足なく提供することが重要です。	◆介護サービス事業者への指導・助言の推進 ◆介護事業所における感染症拡大防止の推進 ◆介護人材の確保・定着促進 ◆効率的な事業所運営の促進 ◆ケアマネジメントの質の向上 ◆介護給付適正化事業の推進	○要介護認定の訪問調査による要介護（要支援）認定者数 (R3)1,760件(R4)1,790件(R5)1,800件 ○ケアプラン点検の実施件数 (R3)15件(R4)15件(R5)15件 ○住宅改修等の点検件数 (R3)5件(R4)5件(R5)5件 ○医療情報突合・縦覧点検での事業所への内容確認件数 (R3)136件(R4)138件(R5)139件 ○介護給付費通知数（2回/年） (R3)3,300通(R4)3,400通(R5)3,400通	○要介護認定の訪問調査による要介護（要支援）認定者数 (R3)1,697件(R4) 件(R5) 件 ○ケアプラン点検の実施件数 (R3) 15件(R4) 件(R5) 件 ○住宅改修等の点検件数 (R3)　1件(R4) 件(R5) 件 ○医療情報突合・縦覧点検での事業所への内容確認件数 (R3) 166件(R4) 件(R5) 件 ○介護給付費通知数（2回/年） (R3) 3,155通(R4) 通(R5) 通	△	新型コロナの感染予防で人との接種を控えるため、住宅改修等の訪問による点検を控えた。
有田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	◇地域包括支援センターは、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士の3職種が連携して、高齢者の総合相談支援、権利擁護業務、介護予防ケアマネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント支援を行う地域包括ケアの拠点で、本市では、市役所内に設置しています。 ◇地域包括支援センターの運営にあたっては、複雑多岐にわたる困難事例に対応できるよう、人員確保と資質向上を図るとともに、医療・介護・福祉の各関係機関との連携・協力体制を強化していくことが求められます。 ◇高齢者本人への支援を基本としつつ、50代の引きこもり者の支援を心身機能が衰えた高齢者が行う「8050問題」など、高齢者本人だけではなく、家族等も含め、生活課題を重層的に抱える世帯が増加していることから、分野横断的な相談支援を強化していくことが求められています。	◆地域包括支援センターの機能強化 ◆地域ケア会議の充実 ◆総合相談体制の充実	○介護支援専門員研修会の開催回数 (R3)1回(R4)1回(R5)1回 ○介護支援専門員研修会の参加人数 (R3)50人(R4)50人(R5)50人 ○個別事例を検討する地域ケア会議の開催回数 (R3)11回(R4)11回(R5)11回 ○地域ケア推進委員会の開催回数 (R3)1回(R4)1回(R5)1回	○介護支援専門員研修会の開催回数 (R3)1回(R4) 回(R5) 回 ○介護支援専門員研修会の参加人数 (R3)46人（内、介護支援専門員　11人） (R4)50人(R5)50人 ○個別事例を検討する地域ケア会議の開催回数 (R3)0回(R4) 回(R5) 回 ○地域ケア推進委員会の開催回数 (R3)0回(R4) 回(R5) 回	△	コロナが長引く中、研修会や個別ケア会議の開催場所や運営方法を検討していく。
有田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	◇慢性的な疾患を持つ高齢者や、医療ニーズと介護ニーズを併せもつ高齢者などへの支援は、 医療と介護の連携が不可欠なことから、在宅医療・介護連携を推進して、地域の医療・介 護の専門職が現状や課題の共有に努め、切れ目のない支援を推進していくことが求められ ています。	◆在宅医療・介護連携の充実	○在宅医療・介護連携推進協議会等の開催回数 (R3)2回(R4)2回(R5)2回 ○専門職を対象とした在宅医療・介護連携の研修の実施回数 (R3)8回(R4)8回(R5)8回 ○医療・介護関係の多職種が参加する研修会の実施回数 (R3)1回(R4)1回(R5)1回	推進協議会以外は、有田市在宅医療サポートセンターに委託。 ○在宅医療・介護連携推進協議会等の開催回数 (R3)1回(R4) 回(R5) 回 ○専門職を対象とした在宅医療・介護連携の研修の実施回数 (R3)1回(R4) 回(R5) 回 ○医療・介護関係の多職種が参加する研修会の実施回数	○	コロナ禍で各種研修会の開催ができていないため、開催方法の検討が必要。

保険者名	第８期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
有田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	◇認知症は、早期に対応・治療すれば進行を遅らせる可能性を高めることができますが、認知症による受診や介護サービスの利用については、本人が拒否するケースも多く、早期に適切な医療や介護につながるよう働きかけていくことが必要です。 ◇若年性認知症は、働き盛りの世代での発症もみられ、仕事や日常生活などに支障をきたす恐れがありますが、年齢が若いため症状と認知症が自分自身では結びつかないこともあり、正しい知識の普及を図り、早期発見・早期受診につなげることが求められます。	◆認知症の早期発見・早期支援 ◆認知症の人への適切な医療・介護サービスの提供	○認知症初期集中支援チーム員会議数の開催回数 (R3)12回(R4)12回(R5)12回	もの忘れ外来へのつなぎや情報共有、SOS事前登録制度。 ○認知症初期集中支援チーム員会議数の開催回数 (R3)4回(R4) 回(R5) 回	○	予防から発症、重度化防止に向けた支援を行う。
有田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	◇本市では、様々な介護予防活動が展開されていますが、アンケート結果からは、多くの高齢者に、転倒、閉じこもりなどの生活機能の低下リスクがみられ、これらはフレイル（生活機能が低下した状態）の可能性が考えられます。そのため、フレイルの進行予防に着目しながら既存の取り組みを一層発展させ、要介護への移行、重度化を抑制していくことが求められます。 ◇「介護予防・生活支援サービス事業」（介護予防・日常生活支援総合事業のうち、要支援認定者などフレイル状態にある人が生活機能の維持・改善のために利用する事業）は、本市では、介護予防訪問介護相当サービス、訪問型サービスA、介護予防通所介護相当サービ ス、通所型サービスAを実施しています。利用者が自立を目指して主体的に介護予防に取り組めるよう支援することが必要です。 ◇元気な高齢者が介護予防や生活支援の担い手になることで、社会的な役割を実感できるような働きかけが必要です。 ◇一人ひとりが健康づくりに関心を持ち、生活習慣病の予防及び早期発見・早期治療に自主的に取り組むことが必要です。本市の健診データの10年間の経年分析では、高血圧・脂質異常が重度化しないようコントロールできた層は、要介護への移行も緩やかであることが明らかとなっています。また、要介護状態になった要因を分析すると、高齢になるにつれ「骨折・筋力低下」の割合が高くなっています。こうした本市の特徴に沿った分野横断的な介護予防・健康づくりの取り組みを	◆「介護予防・生活支援サービス事業」の充実 ◆一般介護予防事業の推進 ◆健康寿命延伸に向けた取り組みの推進	○いきいき体操の会場数 (R3)13か所(R4)13か所(R5)13か所 ○いきいき体操の参加延人数 (R3)5,500人(R4)6,000人(R5)6,500人 ○やわら元気体操の会場数 (R3)12か所(R4)12か所(R5)12か所 ○やわら元気体操の参加延人数 (R3)5,500人(R4)6,000人(R5)6,500人 ○みんなのサロンの会場数 (R3)7か所(R4)7か所(R5)7か所 ○みんなのサロンの参加延人数 (R3)600人(R4)700人(R5)800人 ○いきいき百歳体操の団体数 (R3)19団体(R4)23団体(R5)27団体	より身近な地域や仲間で開催する「いきいき百歳体操」の普及啓発に力を入れ、会場数増につながった。また、フレイル予防として各体操教室で栄養士や歯科衛生士等によるミニ講座を開催。65歳・70歳に市運動施設の無料券を配布し、初めて運動する方や男性参加者を増加につなげた。 ○いきいき体操の会場数 (R3)13か所(R4) か所(R5) か所 ○いきいき体操の参加延人数 (R3)3,597人(R4) 人(R5) 人 ○やわら元気体操の会場数 (R3)12か所(R4) か所(R5) か所 ○やわら元気体操の参加延人数 (R3)4,476人(R4) 人(R5) 人 ○みんなのサロンの会場数 (R3)7か所(R4) か所(R5) か所 ○みんなのサロンの参加延人数 (R3)456人(R4) 人(R5) 人 ○いきいき百歳体操の団体数 (R3)20団体(R4) 団体(R5) 団体	◎	参加者の固定化や男性参加者が極端に少ないこと、運動習慣のない自宅に引きこもっている高齢者をいかに引き出すかが課題。今後、高齢者に市運動施設の無料券を配布し、初めて運動する方や男性参加者を増加させる。
有田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	◇本市では、多くの高齢者が、家庭や地域において様々な社会活動や役割を担っており、個々の健康づくりだけでなく、地域づくりでも大きな役割を担っています。こうした意欲のある高齢者が長年培った知識や技術を生かし、地域で活躍できる環境づくりを進める必要があります。 ◇高齢者の生きがいを高め、老人福祉の増進に積極的な役割を果たすものとして、老人クラブ活動は大変重要です。 ◇高齢者の就労は、それまでの経験や知識を地域社会に還元する貴重な機会であるとともに、 高齢者自身の介護予防や生きがいづくりにも多大な効果があると考えられます。 ◇高齢者自身によるボランティア活動への参加は、生きがいづくりにとって大変重要です。 元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支える担い手となるような仕組みづくりを含	◆老人クラブ活動の活性化 ◆シルバー人材センターの活性化 ◆ボランティア活動への支援	○老人クラブの会員数 (R3)2,200人(R4)2,220人(R5)2,240人 ○シルバー人材センターの会員数 (R3)115人(R4)122人(R5)129人	○老人クラブの会員数 (R3)2,061人(R4) 人(R5) 人 ○シルバー人材センターの会員数 (R3)85人(R4) 人(R5) 人	△	シルバー人材センターの会員数や受注件数の減少で、運営が苦しくなっている。事業の多角化やPR活動に協力するとともに、老人クラブやボランティア活動も含めて、高齢者の生きがいづくりの取り組みを支援していく。

保険者名	第８期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
有田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	◇認知症は誰にでも起こりうる「老い」をめぐる一つの状況として、問題行動を肯定的に受け止め、家族や地域と共生することが重要です。 ◇認知症の人の介護者は、認知症特有の症状や行動への適切な関わり方や介護方法について日常から悩みや負担感を感じており、そうした悩みや負担感の軽減を図ることが求められます。 ◇地域には認知症に対する偏見がまだ残っているため、多世代に繰り返し啓発し、認知症の人や家族が住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを進める必要があります。	◆認知症サポーターの養成 ◆認知症の人とその家族への支援	○認知症サポーター養成講座の開催回数 (R3)18回(R4)18回(R5)18回 ○認知症サポーターの養成人数 (R3)350人(R4)350人(R5)350人 ○認知症カフェの会場数 (R3)4か所(R4)5か所(R5)6か所	啓発イベント「認とも」での広域PR啓発活動。 ○認知症サポーター養成講座の開催回数 (R3)7回(R4) 回(R5) 回 ○認知症サポーターの養成人数 (R3)148人(R4) 人(R5) 人 ○認知症カフェの会場数 (R3)0か所(R4) か所(R5) か所	○	コロナ禍で集まることが難しく、開催方法の検討が必要。認知症サポーター養成講座や認知症カフェ等、認知症に対する市民の理解をさらに深める。